

うつのみやが目指すまちの姿 「ネットワーク型コンパクトシティ」

～100年先も誇れるまちを、みんなで～

これまで — 時代とともにまちの姿を変え、宇都宮市は着実に発展してきました

- 戦後、人口は右肩上がりが増加 ●モータリゼーションや高度経済成長を背景に人々の暮らしは豊かに
- 合併により市域を広げるとともに、工業団地の造成や東北新幹線の開通などが社会経済の発展に寄与

しかし今 — 時代は大きな転換期にあります

人口減少・高齢社会の進行

- 日本の人口は既に減少時代へ突入 50年後には現在の3分の2と予測【※1】
- 世界に類を見ない速さで高齢化が進行 現在の高齢者(65歳以上)の割合4人に1人が、50年後には2.5人に1人に【※2】

地球規模での環境問題

- 猛暑や豪雨など、命をも脅かす異常気象や自然災害が世界中で多発
- 日本は温室効果ガス排出を2020年までに、1990年に比べ25%削減することを目標に【※3】

国内経済の停滞

- 今後、人口減少による経済活力の減退が懸念
- 企業倒産、就職難の負の連鎖
- 税収が大きく減少する一方、医療や介護などの社会保障費は増加の一途

これからは — 宇都宮市においても社会的な課題への対応が求められています

本市でも人口減少が目の前に

- 本市では2015年をピークに人口が減り始める見込み【※4】
- 2022年には市民の4人に1人が高齢者になる見込みであり、若い世代が支えることに【※5】

全国でも有数のクルマ社会

- 本市の2003年時点のCO₂排出量は1990年に比べ24.5%増加【※6】 今後の削減が大きな課題
- 本市の1世帯当たりのガソリン消費量は、全国の県庁所在地の中でもトップクラス【※7】

まちの活力の低下

- ハローワーク宇都宮管内の有効求人倍率(求職者1人当たりの求人件数)は、現在0.69にまで低下【※8】
- まちの顔である中心市街地の通行量は10年前に比べ半分に、活性化が急務【※9】

そして私たちは… — “未来の選択” 私たちのまちを こうしたいと考えています

身近な地域で支え合うまち

- 日常生活に必要な機能が、身近な地域に備わり、子どもから高齢者まで、歩いて暮らせるまち
- 地域の人々がつながって、助け合いながら、安心して、健康に暮らせるまち

環境にやさしいまち

- 公共交通ネットワークが整備され、移動にかかる環境への負荷を低く抑えられるまち
- 都市と自然が共存する緑豊かなまち

元気で成長するまち

- ひとや企業から選ばれ、それらがいきいきと活動するまち
- これまでに整備してきた公共的な施設を効果的・効率的に活用し、ムダなく運営できるまち

これらを実現していくまちの姿が、まちの機能や人口が拠点に集積し(コンパクト)、拠点が連携する(ネットワーク)

「ネットワーク型コンパクトシティ」です。

30年、50年という長い時間をかけながら
3つの方針で、ネットワーク型コンパクトシティのまちづくりに取り組んでいきます。

- 1 市街地の拡大を抑えコンパクトなまちをつくるメリハリのある土地利用 『土地利用の適正化』
- 2 人や魅力が集まり にぎわう 個性ある拠点づくり 『拠点化の促進』
- 3 交通ネットワークで つなげるつながる 『ネットワーク化の促進』

具体的には、どのようなまちになるのでしょうか?

どういう拠点になるの?

都市拠点

高度なまちの機能や魅力が集積した拠点

- 二荒山神社やJR宇都宮駅、東武宇都宮駅、オリオン通りなどが集まっている、宇都宮の顔となる拠点です。
- 百貨店や総合病院、オフィス、文化芸術やアミューズメントの施設など、高度な機能が集まっています。
- 新幹線や在来線により首都圏や東北へ、またバスなどにより市内各地へとアクセスできる高度な交通結節機能を備えています。

地域拠点

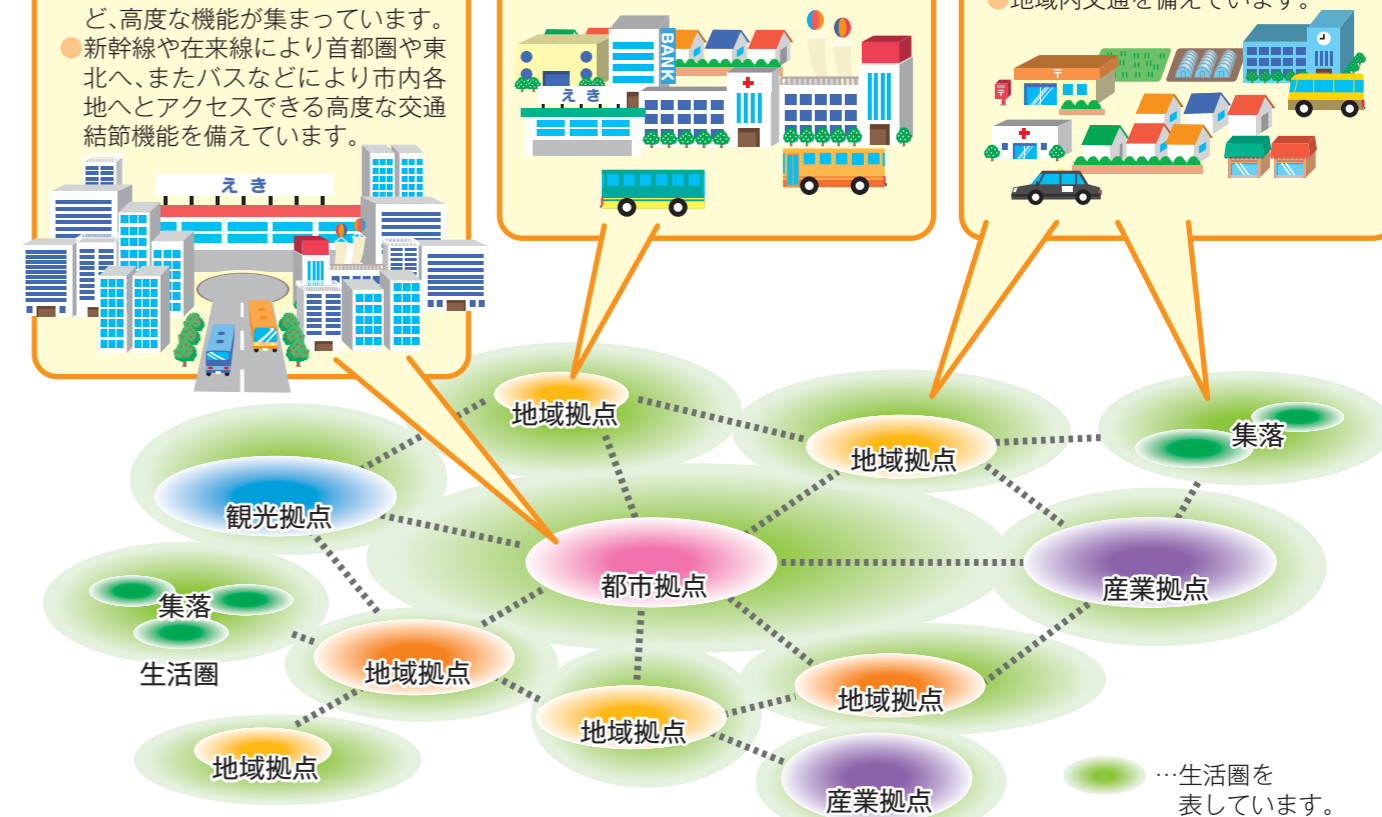
特色あるまちの機能が充実した拠点

- 周辺地域の核となる拠点です。
- 大型店舗や病院、金融機関などさまざまなニーズに対応する機能を備えています。
- バスや鉄道といった交通結節機能を備えています。

生活圏

それぞれの周辺環境に応じた暮らしやすさが充実した拠点

- 元気な地域コミュニティで、日常生活を送るエリアです。
- 商店や郵便局、小・中学校、地域福祉の施設などを備えています。
- 地域内交通を備えています。



拠点がつながるとどうなるの?

それぞれの拠点がまちの機能を補い合い高め合う

都市拠点、地域拠点、産業拠点など、それぞれの拠点がつながり、お互いのまちの機能を補い合うとともに、相乗効果で都市全体の魅力が高まります。

市域内や拠点間を便利に移動

交通ネットワークできめ細かくつながり、誰もが目的に応じた交通手段で、快適に移動することができるようになります。

さまざまな地域での暮らしが、それぞれに快適になる生活重視のまちになります。

次のページで、さまざまな拠点がつながる姿や「公共交通ネットワーク」について詳しく見てみましょう。

【※1】、【※2】:国立社会保険・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」 【※3】:コペンハーゲンでの第15回気候変動枠組条約締約国会議の合意を受けて2010年1月26日に国連事務局長に提出した日本の目標 【※4】、【※5】:宇都宮市「第5次宇都宮市総合計画(2008年3月)」による推計 【※6】:宇都宮市「宇都宮市地球温暖化対策地域推進計画(2007年2月)」による調査

【※7】:総務省統計局「家計調査家計収支編」全国の県庁所在地の中で、本市は2009年は第7位、2008年は第1位の消費量。 【※8】:ハローワーク宇都宮管内2010年9月時点の有効求人倍率。2009年1月に0.82となって以降、1未満で低迷。同7月の0.35が最低。 【※9】:宇都宮市、宇都宮商工会議所「商店街通行量・来街者実態調査(2010年度)」